

# VMware Cloud Foundation

## 一般的な FAQ

### 全般

**Q：VMware Cloud Foundation について教えてください**

**A：**VMware Cloud Foundation™ は、プライベート クラウドとパブリック クラウドに対応する、VMware の新しい統合 Software-Defined Data Center (SDDC) プラットフォームです。新しい VMware SDDC Manager™ の自動化機能とライフサイクル管理機能によって、VMware vSphere® (コンピューティング)、vSAN™ (ストレージ)、NSX® (ネットワーク) 仮想化を 1 つのスタックにネイティブに統合します。Cloud Foundation は、オンプレミスのプライベート クラウドに展開することも、パブリック クラウドからサービスとして実行することもできます。

**Q：パブリック クラウド向けに Cloud Foundation を使用方法について教えてください**

**A：**VMware vCloud® Air™ Network の厳選されたサービス プロバイダーが、Cloud Foundation を基盤としたクラウド サービスを提供します。IBM Cloud は、サービスとして Cloud Foundation を提供する最初のパートナー ソリューションです。詳細についてはサービス プロバイダーにお問い合わせください。

VMware Cloud on AWS™ (現在テクニカル プレビュー中) は、VMware が運用、管理、販売を行う新しいオンデマンド サービスで、VMware Cloud Foundation を活用します。2017 年初めに招待制のベータ版をリリースし、2017 年半ばから一般提供開始予定です。ベータ版への申し込みをご希望の場合は、[こちらのフォーム](#)に入力をお願いいたします。

VMware vCloud Air でも、VMware Cloud Foundation を活用するサービスがまもなく提供される予定です。ベータ版への申し込みをご希望の場合は、[こちらのフォーム](#)に入力をお願いいたします。

**注：**以降の Q & A は、Cloud Foundation のオンプレミス展開に重点を置いています。

**Q：プライベート クラウド向けに Cloud Foundation を展開する方法について教えてください**

**A：**プライベート クラウド向けに展開する場合、主に 2 つの方法があります。(1) 事前にすべてのソフトウェアとハードウェアの設定が施された統合型のシステム (現在 Dell EMC VxRack SDDC として提供) を購入する方法と、(2) 主要なハード

ウェア OEM ベンダーが提供する認定 Ready Systems (認定 vSAN Ready Node と認定スイッチを組み合わせたシステム) に Cloud Foundation ソフトウェアを展開する方法です。詳細については、[互換性ガイド](#)を参照してください。この場合、お客様自身でインストールするか、認定ソリューション プロバイダー/システム インテグレーター の支援を受けて展開します。

**Q：サポート対象の Ready Systems ハードウェアについて教えてください**

**A：**Cloud Foundation は、厳選されたベンダー (Dell 社、HPE 社、QCT 社など) が提供する認定 vSAN Ready Node サーバーハードウェアと、厳選されたスイッチ ベンダー (Cisco 社、Arista 社など) が提供する認定ハードウェア スイッチ上で使用できます。現在の認定ハードウェアの一覧については、[互換性ガイド](#)を参照してください。VMware は、今後もパートナーエコシステムを拡大していく予定です。

**Q：Cloud Foundation のソフトウェアとハードウェアのサポート窓口はどこですか**

**A：**Dell EMC 社などが提供する Cloud Foundation 統合システムを購入する場合は、供給元の販売パートナーが単一のサポート窓口 (SPOC) となってハードウェアとソフトウェアのサポートを提供します。認定ハードウェアとは別に Cloud Foundation ソフトウェアを VMware から購入する場合は、ほかの VMware 製品に適用される標準のサポート モデルに従って、VMware グローバル サポート サービスが Cloud Foundation ソフトウェアのサポートを提供します。

**Q：Cloud Foundation ソフトウェアの購入方法について教えてください**

**A：**Cloud Foundation ソフトウェアは 3 つの方法で購入できます。

- (1) VMware のチャネル パートナーから購入する、
- (2) OEM ベンダーから統合システムの一部として購入する、
- (3) サービス プロバイダーからサブスクリプション サービスとして購入するという、いずれかの方法からお選びください。

**Q：Cloud Foundation ソフトウェアを自分でインストールすることは可能ですか**

A：はい。VMware は、Cloud Foundation ソフトウェアを自分でインストールするお客様向けにドキュメントを提供しています。また、VMware プロフェッショナル サービスやソリューション プロバイダーからインストールの支援を受けることもできます。Cloud Foundation の展開方法の詳細は、[ドキュメント ページ](#) を参照してください。

**Q：Cloud Foundation と VMware vRealize® Suite の違いについて教えてください**

A：プライベート クラウドを構築するには、次のような対応が必要です。

1. コンピューティング、ストレージ、ネットワーク、セキュリティをソフトウェア ベースのアプローチで仮想化し、インフラストラクチャを刷新します。
2. 仮想インフラストラクチャの提供と継続的な管理を自動化し、エンド ユーザーがサービスとして使用できるようにします。

これらは、Cloud Foundation と vRealize Suite を使用して実現できます。

Cloud Foundation は、SDDC Manager によるクラウド インフラストラクチャの基盤の迅速かつ効率的な構築、管理を支援します。SDDC Manager でクラウド インフラストラクチャ スタックのライフサイクル管理（導入から構成、インフラストラクチャのプロビジョニング、アップグレード/パッチ適用など）を自動化することで、クラウド管理者はクラウド スタックを非常に簡単に構築および維持できます。

vRealize Suite は、Cloud Foundation 上に管理レイヤーを提供して、仮想インフラストラクチャとワークロードをサービスとして提供し、効率的な管理を支援します。vRealize Suite は、導入時の自動化機能（セルフ サービス カタログ、ワークロード プロビジョニングの自動化、ポリシー ベースの管理、API 機能）と、導入後の運用機能（ワークロードの監視、トラブルシューティング、キャパシティ管理、ビジネス プランニング）を提供します。

Cloud Foundation はソフトウェア ベースの基盤を提供するクラウド インフラストラクチャです。一方、vRealize Suite は、サービス モデル アプローチを使用して、アプリケーションや仮想マシンへのクラウド インフラストラクチャの提供と継続的な管理を自動化するクラウド管理プラットフォームです。これらは互いに補完関係にあり、VMware ベースのプライベート/ハイブリッド クラウドを構築するための重要な要素です。

Cloud Foundation と vRealize Suite は、いずれもパブリッククラウドにまで拡張可能なハイブリッド クラウド ソリューションです。現在、Cloud Foundation は、IBM Cloud を通じて提供されています。vRealize 製品は、vCloud Air Network クラウド、AWS、Azure（プロフェッショナル サービス サポートを使用）のエンドポイントを管理します。

**Q：vRealize Suite が Cloud Foundation に組み込まれていない理由について教えてください**

A：VMware は幅広い選択肢の提供を重視しています。VMware Cloud Foundation は、ほかのサードパーティ製クラウド管理プラットフォームとも連携させることができます。同様に、vRealize Suite は、ほかのクラウド インフラストラクチャプラットフォーム（ほかのハイパーバイザーを含む）や、複数のパブリック クラウド ベンダーと組み合わせて使用することもできます。

**Q：Cloud Foundation に組み込まれている SDDC Manager と、vRealize Suite に組み込まれている vRealize Automation の違いについて教えてください**

A：SDDC Manager と vRealize Automation は、プライベートクラウドとパブリッククラウドの構築と運用に関して、それぞれ異なる機能を自動化します。SDDC Manager は、クラウドインフラストラクチャ スタックのライフサイクル管理（導入から構成、インフラストラクチャのプロビジョニング、アップグレード/パッチ適用など）を自動化し、クラウド管理者によるクラウドスタック（vSphere、vSAN、NSX）の構築と維持を大幅に簡素化します。vRealize Automation™ は、仮想マシンとアプリケーションの提供と管理を自動化し、大規模環境でエンド ユーザーがサービスとして使用できるようにします。

**Q：SDDC Manager は、既存のほかの管理ツール（vCenter Server、vRealize Operations Manager™、vRealize Log Insight™ など）の代替ツールとして使用するものですか**

A：いいえ。SDDC Manager は、クラウド管理者がクラウド インフラストラクチャのソフトウェア スタックを構築および維持する際に役立つ新しい機能を提供することで、VMware vCenter Server® と vRealize Suite の機能を補完します。クラウド管理者は、引き続き vCenter Server や任意のクラウド管理プラットフォームを活用して、仮想マシンの管理、監視、アラート、プロビジョニングなどを行います。

**Q：SDDC Manager で展開を自動化できるソフトウェア コンポーネントについて教えてください**

A：SDDC Manager の自動化機能は Cloud Foundation スタックの主要なコンポーネント以外にも拡張できるため、Cloud Foundation とは別売りの VMware 製品にも自動化機能を提供できます。現在 SDDC Manager を使用して展開を自動化できる VMware のソフトウェア コンポーネントには、VMware vSphere、vSAN、NSX、vCenter Server、vRealize Log Insight、vRealize Operations、Horizon® があります。今後、ほかの製品も対象となる予定です。vCenter Server、vRealize 製品、Horizon は、Cloud Foundation とは別売です。

**Q：Cloud Foundation スタック全体を使用しない既存の vSphere 環境に SDDC Manager を展開できますか**

A：いいえ。SDDC Manager のライフサイクル自動化機能は、SDDC Manager が Cloud Foundation スタック全体の構築プロセスを自動化することを前提としており、そこから開始されます。したがって、SDDC Manager を既存の環境の管理に使用することはできません。

**Q：Cloud Foundation と VMware Validated Design の違いについて教えてください**

A：VMware Validated Design (VVD) はリファレンス設計をドキュメント化したもので、SDDC の構築と運用に関するブループリントとガイドラインが定義されています。お客様自身で、または VMware や VMware パートナーのプロフェッショナルサービスの支援を受けてソフトウェア コンポーネントを組み合わせ、独自の SDDC を構築する場合の技術的な実装を支援するツールです。

Cloud Foundation は、VMware SDDC スタックの複数のコンポーネントを統合し、規範的な設計とソフトウェア BOM を実装するためのソフトウェア製品です。Cloud Foundation には検証済みの設計が組み込まれています。この設計は、SDDC Manager の独自のライフサイクル管理自動化機能を使用して展開および維持されます。Cloud Foundation の設計は VVD と同じベスト プラクティスのセットに対して開発とテストが行われ、VVD と同等の厳格さでテストされています。

**Q：EVO SDDC はどうなったのですか**

A：VMware Cloud Foundation は VMware EVO™ SDDC™ の機能を基盤として構築されたもので、EVO SDDC の機能を拡張します。そのため、現在は、EVO SDDC の後継として Cloud Foundation を提供しています（EVO SDDC は、2016 年 9 月 1 日以降ご提供していません）。

## 価格設定とパッケージ

**Q：Cloud Foundation のソフトウェア コンポーネントについて教えてください**

A：Cloud Foundation スタックには、VMware vSphere、vSAN、NSX、SDDC Manager が含まれています。お客様は Cloud Foundation 向けの VMware Horizon アドオンを別途購入できるほか、VMware vRealize Suite またはその個別のコンポーネントを購入できます。ライセンスは個別に必要ですが、SDDC Manager は Horizon、vRealize Operations、vRealize Log Insight のソフトウェア コンポーネントを Cloud Foundation 環境の一部として常に展開します。

**Q：Cloud Foundation のライセンス モデルについて教えてください**

A：Cloud Foundation は、プロセッサ（CPU）単位の無期限のライセンス モデルで販売されます。

**Q：すでに保有している Cloud Foundation コンポーネントの既存のライセンスを移行できますか**

A：はい。個別のコンポーネント（vSphere、vSAN、NSX）のライセンスをお持ちのお客様は、それらのライセンスを Cloud Foundation 環境に移行し、スタックで不足しているコンポーネントを購入することで、Cloud Foundation 環境のライセンスを完全なものにできます。

**Q：SDDC Manager を別途購入することは可能ですか**

A：SDDC Manager は Cloud Foundation の一部としてのみ購入できます。お客様が vSphere、vSAN、NSX のライセンスをお持ちの場合は、SDDC Manager の単体ライセンスを段階的に追加購入できます。

**Q：Cloud Foundation に vCenter Server は含まれていますか**

A：いいえ。お客様が所有する vCenter Server ライセンスを Cloud Foundation 環境に追加する必要があります。ただし、環境に展開されている vCenter Server インスタンス（ワークロード ドメインなど）の数に関わらず、SDDC Manager インスタンスごとに vCenter Server ライセンスが 1 つ必要です。ライセンスは個別に必要ですが、SDDC Manager は vCenter Server を各ワークロード ドメインの一部として展開および構成します。

**Q：Cloud Foundation のすべてのコンポーネントについて SnS を更新する必要はありますか**

A：Cloud Foundation を引き続き使用するには、基盤となるすべてのコンポーネントに対して適切にライセンスが付与され、有効な SnS 契約が締結されている必要があります。ただし、お客様が Cloud Foundation からの移行を希望される場合は、一部の Cloud Foundation コンポーネントについてのみ、サポート契約を更新することもできます。

**Q：SDDC Manager は vCloud Suite に組み込まれていますか**

A：いいえ。VMware SDDC Manager™ は VMware vCloud Suite® には組み込まれていません。SDDC Manager は Cloud Foundation 環境でのみ使用できます。

## 技術全般

**Q：VMware SDDC Manager について教えてください**

A：SDDC Manager は、Cloud Foundation ベースのプライベートクラウドの展開、構成、継続的な管理を自動化するために使用する、SDDC の統合管理コンポーネントです。

**Q：ライフサイクル管理機能 (LCM) について教えてください**

A：ライフサイクル管理機能 (LCM) は、SDDC Manager に組み込まれている機能セットです。vSphere、vSAN、NSX、SDDC Manager を含む、統合 SDDC プラットフォームのソフトウェアスタックに対するパッチ適用とアップグレードを自動化します。

**Q：ハードウェア管理サービスについて教えてください**

A：ハードウェア管理サービス (HMS) は SDDC Manager に含まれる機能で、ハードウェアの検出、起動、構成、監視を行い、個々のベンダーに対応したプラグインを使用して、認定ハードウェアコンポーネントと連携します。

**Q：vRack Imaging Appliance (VIA) について教えてください**

A：VIA は、SDDC Manager による構成の準備として、新しい Cloud Foundation ラックの最初のイメージングを実行するイメージングアプライアンスです。VIA はソリューションの初期導入時にのみ使用します。

**Q：複数の物理ラックはどのように管理されますか**

A：複数のラックを使用する構成では、高速の Leaf-Spine 型ネットワークトポロジーを使用して、ラックが相互接続されます。複数のラックにわたるすべてのシステムが、SDDC Manager の中央のインスタンスからリソースの論理プールとして管理されます。

## ハードウェア

**Q：Cloud Foundation プライベートクラウドの物理ハードウェア要件について教えてください**

A：Cloud Foundation プライベートクラウドは、1～8 台の物理ラックで構成されます。各ラックは、4～32 台 (1U) または 4～16 台 (2U) の認定サーバー (電力の制約を受ける)、冗長 Top-of-Rack (ToR) スイッチのペア、単一の管理スイッチで構成されます。マルチラック構成の場合は、冗長 Spine スイッチのペアを使用してラック間の相互接続を行います。

**Q：Cloud Foundation の最大構成について教えてください**

A：各 Cloud Foundation プライベートクラウド環境は、最大で物理ラック 8 台まで拡張できます。各ラックは 32 台のサーバー (電力の制約を受ける) で構成されるため、合計で 8 台のラックに 256 台のサーバーを搭載できます。

**Q：物理サーバーの要件について教えてください**

A：Cloud Foundation ベースのプライベートクラウドの構成要素には vSAN Ready Node が含まれます。Cloud Foundation では、ベンダー、サーバーモデル、CPU の速度、コアの数、メモリーのサイズ、物理ディスク容量、SSD キャッシュの容量を柔軟に選択できます。認定 vSAN Ready Node の一覧については、[互換性ガイド](#)を参照してください。

**Q：複数のベンダーの Ready Node を単一のラック内に混在させることは可能ですか**

A：単一の物理ラック内には、すべて同種の vSAN Ready Node を配置する必要があります。つまり、サーバーの製造者、モデル、ハードウェア仕様 (CPU、メモリー、ストレージ) が同じである必要があります。ただし、別のラックには、異なるベンダーが提供する Ready Node を配置できます。

**Q：物理ネットワークの要件について教えてください**

A：Cloud Foundation では、冗長 Top-of-Rack スイッチを使用した自己完結型の Leaf-Spine ネットワークトポロジーを各ラックに実装します。各ラックは冗長 Spine スイッチのペアを使用して相互接続されます。外部ネットワークへのアクセスは、1 台目のラックの ToR スイッチに構成される冗長アップリンクのペアを通じて行います。

Q：認定 Ready Node は任意の認定ネットワーク スイッチと組み合わせて使用できますか

A：はい。認定 Ready Node は任意の認定スイッチと組み合わせて使用できます。ただし、ToR スイッチと Spine スイッチは同じベンダーのものを使用する必要があります。

Q：ラックが 1 台の場合も Spine スイッチは必要ですか

A：いいえ。Spine スイッチは、物理ラックを 2 台以上使用する場合にのみ必要です。

Q：Cloud Foundation プライベート クラウドの Top-of-Rack (ToR) スイッチと Spine スイッチに関する物理スイッチの要件について教えてください

A：Cloud Foundation では、認定された ToR スイッチと Spine スイッチのみ使用できます。認定スイッチ ベンダーの一覧については、[互換性ガイド](#)を参照してください。

Q：Cloud Foundation プライベート クラウドの管理スイッチに関する物理スイッチの要件について教えてください

A：Cloud Foundation では、認定された管理スイッチのみ使用できます。認定スイッチ ベンダーの一覧については、[互換性ガイド](#)を参照してください。

## ワークロード ドメイン

Q：ワークロード ドメインについて教えてください

A：ワークロード ドメインは、特定のキャパシティ、パフォーマンス、可用性の特性に基づいて Cloud Foundation インフラストラクチャから分割された、リソースのサブセットです。各ワークロード ドメインは単一の vSphere クラスタで構成され、複数の物理ラックにまたがって配置できます。

Q：管理ドメインについて教えてください

A：管理ドメインは、Cloud Foundation プライベート クラウドのインスタンス化、管理、監視に必要なインフラストラクチャ コンポーネントをホストするための専用のワークロード ドメインです。管理ドメインは、1 台目のラックの初期構成の際に、SDDC Manager によって自動的に作成されます。

Q：管理ドメインにはいくつのノードが必要ですか

A：管理ドメインはストレージに vSAN を利用するため、少なくとも 3 ノードが必要です。ハードウェア障害に対する保護を強化し、クラスタのメンテナンスを容易にするには、管理ドメインを 4 ノードに拡張することを推奨します。

Q：作成できるワークロード ドメインの種類について教えてください

A：ワークロード ドメインには 2 種類あります。

1. 仮想インフラストラクチャ (VI) のワークロード ドメインは、単一の vSphere クラスタと専用の vCenter Server インスタンスで構成されます。
2. 仮想デスクトップ インフラストラクチャ (VDI) のワークロード ドメインは、専用の vSphere クラスタ、専用の vCenter Server インスタンス、Horizon のソフトウェア コンポーネントで構成されます。

Q：ワークロード ドメインには vSphere クラスタをいくつ構成できますか

A：現在、Cloud Foundation では、1 つのワークロード ドメインにつき 1 つの vSphere クラスタをサポートしています。

Q：ワークロード ドメインには vCenter Server インスタンスをいくつ展開できますか

A：各ワークロード ドメインには、専用の vCenter Server インスタンスが 1 つあります。(価格構成およびパッケージに関する注意事項：SDDC Manager インスタンス 1 つにつき、必要な vCenter Server のライセンスは 1 つだけです。)

Q：仮想インフラストラクチャのワークロード ドメインに含めることができる vSphere ホストの最大数と最小数について教えてください

A：ワークロード ドメインは vSAN を利用するため、少なくとも 3 台のホストが必要です。現在、最大で 64 台のホストを含めることができます。

Q：仮想デスクトップ インフラストラクチャのワークロード ドメインに含めることができる vSphere ホストの最大数と最小数について教えてください

A：ワークロード ドメインは vSAN を利用するため、少なくとも 3 台のホストが必要です。現在、VMware Horizon クラスタ内に最大で 20 台のホストを含めることができます。

Q：ワークロード ドメインを作成する際に、Cloud Foundation で使用するホストの台数を決める方法について教えてください

A：ワークロード ドメインに割り当てられるホストの台数は、(1) ワークロード ドメインの作成時に管理者から提供されるキャパシティ パラメーター、(2) vSAN の可用性ポリシーの 2 つの要素に基づいて決まります。

Q：ワークロード ドメインの作成後に、ワークロード ドメインを拡張または削除することはできますか

A：はい。Cloud Foundation では、SDDC Manager を使用して、ワークロード ドメインの作成、拡張、削除のプロセスを完全に自動化できます。

Q：ワークロード ドメインのサイズを縮小することはできますか

A：Cloud Foundation では、ワークロード ドメインのサイズを自動で縮小する機能はまだ提供されていません。この機能は今後提供される予定です。その間、手動プロセスを実装することで、ワークロード ドメインから手動でホストを退避できます。

## ネットワーク

Q：Leaf-Spine ネットワーク トポロジーでは、ToR から Spine へのリンクに L2 と L3 のどちらが使用されますか。また、スパニング ツリーは使用されますか

A：Cloud Foundation では、すべての物理ラックが同じ L2 ネットワーク上に配置されます。ToR スイッチは、マルチ シャーシ リンク アグリゲーション グループ (MC-LAG) 内に構成された冗長 40 Gbps リンクを介して、2 個の Spine スイッチにデュアル接続されます。MC-LAG を使用してループが回避されるため、スパニング ツリー プロトコルは使用されません。将来、ネットワーク構成が L3 を使用するように変更される可能性があります。その場合、各ラックは専用の L2 ネットワーク上に配置され、L3 スイッチのラック間のトラフィックをルーティングする必要があります。これにより、等コスト マルチパス (ECMP) 転送などによる効率性の向上が実現します。

Q：すべてのスイッチ (ToR、Spine、管理) を同じベンダーから購入する必要がありますか

A：プラグインがシームレスに動作するように、ToR スイッチと Spine スイッチは同じベンダーから購入する必要があります。管理スイッチは、[互換性ガイド](#)に記載されている任意のサポート対象ベンダーから購入できます。

## ストレージ

Q：Cloud Foundation には vSAN が必要ですか

A：はい、vSAN が必要です。

Q：Cloud Foundation はオール フラッシュ vSAN ストレージをサポートしていますか

A：はい。Cloud Foundation は、ハイブリッドとオール フラッシュの両方の vSAN 構成をサポートしています。

Q：Cloud Foundation でネットワーク接続型ストレージ (NAS) を使用できますか

A：はい。Cloud Foundation から IP ベースの外部ストレージ (NFS/iSCSI) に接続できます。

Q：Cloud Foundation で FCoE またはファイバ チャンネルを使用することはできますか

A：いいえ。FCoE とファイバチャンネルは、現在 Cloud Foundation ではサポートされていません。

## ライフサイクル管理

Q：SDDC Manager のライフサイクル管理機能を使用してパッチ適用とアップグレードを実施できるソフトウェア コンポーネントについて教えてください

A：現在、vSphere、vSAN、NSX、SDDC Manager のすべてのコンポーネントは、SDDC Manager のライフサイクル管理機能の一部としてパッチ適用とアップグレードを実施できます。今後、ほかのソフトウェア コンポーネントも対象となる予定です。

Q：パッチやアップグレードが利用可能になると、どのように通知されますか

A：パッチやアップグレードが利用可能になると、SDDC Manager から自動でユーザーに通知されます。

Q：VMware からソフトウェア アップデートがリリースされる頻度について教えてください

A：決まったスケジュールはありませんが、パッチは重要性 (セキュリティ パッチなど) に基づいて随時リリースされ、アップグレードは通常は四半期ごとにリリースされます。

Q：パッチの適用やアップグレードの実施をスケジュール設定することはできますか

A：はい。SDDC Manager では、パッチ適用とアップグレードが定期メンテナンスの時間に実行されるようにスケジュール設定できます。

Q：個々のワークロード ドメインに対して個別にパッチ適用やアップグレードを行うことはできますか

A：はい。パッチ適用とアップグレードはワークロード ドメイン単位でスケジュール設定できるため、徐々に更新を適用できます。

## その他

Q： vRealize Automation や vRealize Business for Cloud など、vRealize Suite のその他のコンポーネントも SDDC Manager で展開を自動化することはできますか

A： 現在、SDDC Manager では vRealize Automation と vRealize Business for Cloud の展開を自動化することはできません。これらのコンポーネントを手動で展開し、Cloud Foundation と外部で連携させることができます。

Q： Cloud Foundation プライベート クラウド環境で、vRealize Operations とともに使用する物理スイッチの管理パックについて教えてください

A： Cloud Foundation プライベート クラウド環境に適した vRealize Operations 管理パックを手動でインストールして構成できます。パッチ適用やアップグレードなど、Cloud Foundation のライフサイクル管理機能 (LCM) のアクティビティを実行したあと、管理パックの再インストールと再構成が必要になる場合があります。

Q： Cloud Foundation のライフサイクル管理機能 (LCM) には、ファームウェアのアップデートは含まれますか

A： いいえ。ファームウェアのアップデートは、Cloud Foundation の LCM 機能には含まれません。ベンダーから提供されるツールを使用してファームウェアのアップデートを実行してください。

Q： Cloud Foundation の各ワークロード ドメインには、専用の vRealize Operations および Log Insight のインスタンスはありますか

A： Cloud Foundation には、Cloud Foundation インフラストラクチャのリソース全体にまたがる単一の vRealize Operations クラスタが組み込まれています。vRealize Operations クラスタは、特定の Cloud Foundation ワークロード ドメイン専用ではありません。そのため、エンド ユーザーに Cloud Foundation のラック全体の統合ビューが提供されます。拡張性の理由により、個別の vRealize Operations 仮想マシン インスタンスは、Cloud Foundation の物理ラックごとに展開されます。各ラックは同じクラスタの一部です。また、Log Insight では、Cloud Foundation インフラストラクチャのリソース全体にまたがる単一の Log Insight 統合クラスタによる、同様の展開モデルが使用されます。

Q： Cloud Foundation 管理クラスタで vRealize Log Insight に送信されるログについて教えてください

A： Cloud Foundation では、ESXi™、vSAN、NSX、SDDC Manager、vCenter Server、Horizon のイベント ログを vRealize Log Insight に送信します。

Q： 詳細情報の入手方法について教えてください

A： Cloud Foundation の詳細情報は、[製品ページ](#)を参照してください。

